平成22年度　　**学 校 評 価 結 果**　　大仙市立双葉小学校

［評価段階］　4：十分に達成　3：ほぼ達成　2：やや不十分　1：不十分

【子どもの実態から】

NO	評　価　項　目	教職員平均（前期比）	児童平均（前期比）	保護者（前期比）
1	子どもは，学校や学級が楽しいと思っている。	3.1 (−0.2)	3.5	3.5 (−0.2)
2	子どもは，積極的にいろいろなことにチャレンジしている。	3.1 (＋0.1)	3.3	
3	子どもは，元気にあいさつ・返事ができる。	2.8 (＋0.1)	3.4 (−0.1)	3.5 (＋0.2)
4	子どもには，やさしく思いやりの態度が見らる。	2.8 (＋0.1)	3.1	
5	子どもは，粘り強く物事に取り組んでいる。	3.0 (＋0.5)	3.2 (−0.2)	
6	子どもは，人の話をよく聞くことができる。	2.8 (±0)	3.3 (−0.1)	
7	子どもは，自分の考えをもち，はっきり話すことができる。	2.6 (＋0.1)	3.3	
8	子どもは，朝の読書等を通して本に親しんでいる。	3.2 (−0.2)	3.2 (−0.1)	
9	子どもは，授業がわかりやすいと感じている。	3.1 (＋0.4)	3.5 (＋0.1)	3.0 (±0)
10	子どもは，わからないことを教師や友だちなどに聞いて解決しようとしている。	2.8 (−0.1)	3.2	
11	子どもは，体力作りに努めている。	3.3 (−0.3)	3.6 (−0.1)	
12	子どもは，縦割り活動を楽しんでいる。	3.4 (−0.2)	3.6	
13	児童会の活動で，子ども一人一人が積極的に役割を果たし，工夫して活動している。	3.2 (＋0.2)		
14	子どもは，手洗い・歯磨きなど衛生に気を配っている。	3.2 (−0.2)		
15	子どもは，掃除を協力してがんばっている。	3.0 (＋0.2)		
16	子どもは，給食の準備や後片付けをしっかりやっている。	3.6 (−0.2)		
17	子どもは，育てているものの世話をよくやっている。	3.0 (−0.3)		
18	子どもは，歩いて元気に登下校をしている。	3.2 (±0)	3.7 (−0.1)	3.7 (±0)
19	子どもは，家庭学習に継続的に取り組んでいる。	3.6 (＋0.3)	3.4 (−0.2)	3.2 (±0)
20	子どもには，「早寝・早起き・朝ご飯」の基本的生活習慣が身についている。	3.1 (＋0.2)	3.1(−0.2) 3.5(−0.2)	2.9(−0.1) 3.7(±0)

【学校の取り組みから】

NO	評　価　項　目	教職員平均（前期比）	児童平均（前期比）	保護者（前期比）
1	教育目標は子ども・学校・地域の実態に即し，全職員の共通理解が図られている。	3.3（±0）		
2	教育目標の実現を目指して創意ある指導計画がなされ，具体的に進められている。	3.1（±0）		
3	学校運営に，職員の意見が反映されている。	3.1（−0.1）		
4	校務分掌は，効果的に機能している。	3.3（＋0.1）		
5	学校行事は，適切に計画・運営されている。	3.7（＋0.4）		3.3（＋0.2）
6	日課表は，学校及び地域等の実情から考えて適切である。（含スキルタイム，読書等）	3.3（−0.1）		
7	学力向上のための施策について，職員が共通理解をもって取り組んでいる。	3.7（＋0.4）		
8	子どもにとってよく分かる授業となるよう工夫している。	3.1（＋0.2）	3.5（＋0.1）	3.0（±0）
9	個に応じた指導の工夫がなされている。	3.2（＋0.1）		3.4（＋0.1）
10	体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れた指導をしている。	3.3（±0）		
11	道徳の主題についての研究や資料の収集等に努めている。	2.8（＋0.2）		
12	自主的な児童会活動が行われるように，学校全体で支援している。	3.2（＋0.3）		
13	縦割り活動は，効果的に実施されている。	3.8（＋0.4）		
14	総合的な学習の時間は，つけたい力を培う内容や活動になっている。	2.8（±0）		
15	学級目標の具現化を目指す経営がなされている。	3.0（−0.1）		
16	児童一人一人の個性を尊重し，共感的な児童理解と支援に努めている。	3.4（＋0.1）		3.3（＋0.1）
17	職員の共通理解にたった適切な連携・協力による生徒指導が推進されている。	3.6（±0）		
18	いじめ・不登校等の問題行動の未然防止と早期解決に努めている。	3.4（−0.2）		3.2（±0）
19	安全指導，食育指導，清掃指導などが適切に行われている。	3.2（−0.2）		
20	学校の教育方針や指導の重点が，保護者（地域）に明確に示されている。	3.1（±0）		3.2（＋0.1）
21	子どもたちの学校での活動の様子をわかりやすく保護者に伝えている。	3.3（＋0.2）		3.3（±0）
22	児童の安全な登下校のために，地域・保護者との連携や協力がなされている。	3.4（±0）		3.4（＋0.1）
23	PTAや地域と連携を図りながら，教育活動を進めている。	3.6（±0）		3.3（＋0.1）
24	学校環境・諸施設・設備が児童の活動に適するように整備されている。	3.6（＋0.3）		3.5（＋0.2）
25	教職員が課題意識をもって積極的に研修に取り組んでいる。	3.4（±0）		

平成２２年度大仙市学校評価共通項目についての双葉小学校の評価結果

	評価項目（大項目）	選択	評価指標（小項目）	質問内容	評価結果の分析及び成果・課題				改善に向けた方策等
					自己評価（教職員）	評価	学校関係者評価	評価	
子どもサイド	**楽しく明るい生活（幼・小）確かな人間力（中）**	○	基本的な生活習慣	元気にあいさつ・返事をしている。	前後期を比較すると，やや後期の評価が高くなっているが，まだ十分とはいえない。児童自身の評価や保護者の評価はとても高く，教職員の評価との差が大きい。	B	地域での児童の様子を見ていると，昨年度よりもあいさつがよくなってきていると感じる。指導の効果が上がってきている。	A	児童の自己肯定感を大切にしながら，気持ちのよいあいさつや返事をすることの大切さを道徳の時間等で指導していく。特に，返事については根気強く取り組んでいく。
			集団生活と自己有用感						
	心力の向上		思いやりの心・命の大切さ	粘り強く物事に取り組んでいる。	本校の課題の一つであ「たくましい心」の育成にかかわる項目である。学習や行事等への取り組みに粘り強さが見られるようになり，後期に大きく評価を上げた。	B	たくましさがやや足りない。小規模校の弱点は，手をかけすぎる傾向になりがちだという点である。今後も，指導に工夫の余地があるのではないか。	B	新しいことに挑戦したり，困難を乗り越えたりする体験を意識的に設定していく。行事等に限らず，日常の活動の中にその機会はたくさんあると考える。
		○	たくましい心・向上心						
	学力の向上	○	学ぶ意欲の高まりと自学の習慣化	分からないことを教師や友達などに聞いて解決しようとしている。	友達同士の学び合いは，授業や他の様々な活動の中で行われている。しかし，自分で試行錯誤しながら解決しようと努力する前に，解決方法を求めてしまう傾向がある。	B	学習状況調査の結果を見ると，これからの社会を生きていく上で欠かせない応用力・発想力のさらなる向上が望まれる。取り組みを強化してほしい。	A	「考える楽しさ」「分かる喜び」を実感できるような授業を展開することによって，学ぶ意欲が高まり課題解決に向けて努力するようになる。教師が互いの授業を参観し合う機会を多く設定し授業力の向上を図ることで児童の意欲を高めたい。
			基礎・基本の定着						
	健康の維持増進・体力の向上	○	健康な体つくり	体力作りに努めている。	パワーアップ大作戦（業間運動）の設定により，日常的に運動に親しむことができている。ローテーションを組むことで，種類の異なる運動を楽しみながら体力作りができた。	A	学校だけではできないことがある。家庭とより一層協力して取り組んでほしい。体力作りや食育に関しては，低学年のうちに手を打つ必要がある。	B	児童にとって，より魅力的な場作りをしてパワーアップ大作戦（業間運動）を充実させていく。併せて，家庭に働きかけて，健康な体作りに欠かせない生活習慣や食生活の改善も図っていきたい。
			食育への取り組み						
	安全・安心		安全確保・安全教育・防災教育	安全に気をつけながら，歩いて元気に登下校している。	登校班による集団登下校の中で，上学年が下学年の面倒をみながら交通ルールを教え，安全に通学路を歩くことができている。	A	地域に呼びかけて，確実に安全確保の手だてが講じられている。	A	集団下校の前に，全校児童に生徒指導主事から安全面についての指導を行ってきた。今後も継続し，安全への意識をさらに高めていきたい。
		○	登下校時の事故防止						
教師サイド	**組織運営・学校力**	○	校長のリーダーシップと教育目標の達成	教育目標の実現を目指して創意ある指導計画がなされ，具体的に進められている。	教育目標についての共通理解が図られ，それを実現するための指導計画も適切に立てられ実践された。	B	望ましい児童像を目指して，継続して努力していってほしい。	B	24年度の学校統合をに向けて，児童に是非身につけさせたい力が本校の教育目標に盛り込まれている。来年度も継続して取り組み，目指す子ども像に近づけたい。
			特色ある教育活動の推進						
	教職員の資質向上	○	教師の授業力・指導方法の工夫改善	子どもにとってよく分かる授業となるよう工夫している。	前期はやや厳しい評価であったが，後期は授業研究会や毎週の研修を通して授業改善が図られ，評価も高くなった。児童の評価も高く，多くの児童が分かりやすい授業と感じている。	B	ＴＴ・教科担任制を取り入れて，指導方法の工夫改善を図っている。このような取り組みが学力向上につながっていると感じる。	A	子どもがよく分かると実感したことが確かな力となって身に付くよう，まだまだ授業改善が必要である。特に，思考力や表現力を高めるための授業について研究を深めていかなければならない。
			魅力ある学級経営・学年経営						
	開かれた学校づくり	○	保護者や地域との連携	安全な登下校のために，地域・保護者との連携や協力がなされている。	見守り隊の方々と情報交換しながら，安全な登下校について指導を継続した。情報をもとに，必要に応じてすぐに対応することができた。	A	新しい連携がささやかでも，教育の一環としていかに取り組んできたかが重要である。	A	見守り隊の方々と定期的に情報交換会を行い，児童の安全を守っていきたい。また，児童が感謝の気持ちをもって接することができるよう指導していく。
			学校評価の実施と公表						
	生徒指導・進路指導		組織的な教育相談体制の整備	いじめ・不登校等の問題行動の未然防止と早期解決に努めている。	面談・アンケート等で児童の実態を把握し，それをもとに児童を語る会で職員の共通理解を図って対応してきた。	A	日頃のきめ細やかな指導と，迅速な対応や相談で解決に向けて努力していることが，良い結果に結びついている。	A	引き続き，面談・アンケート等で児童の実態を把握していく。担任と学級の児童・保護者との信頼関係を築くことが面談の効果を上げることにつながる。より確かな信頼関係の構築に努めたい。
		○	不登校・いじめ・問題行動等への対応						
	教育環境整備		校舎・校地の管理と整備	グラウンド・学校菜園・遊具等，教育環境が整備され子どもたちの活動に生かされている。	グラウンド・スキー場・畑等が，体育や総合的な学習の中で有効に活用され，大きな成果を上げた。保護者の協力も得ながら整備し，児童は，整った環境の中で生き生きと活動することができた。	A	子どもを育んでいるこの整備された自然環境は，宝物と言える。都会の学校にはない貴重なものである。	A	今年度同様，恵まれた校舎や設備・自然環境を十分に活かした活動を考えていきたい。同時に，常に安全面へ配慮していく。
		○	施設・設備の整備と活用						

※各校(園)においていずれか1つを選択　※該当する内容事項とそれについての評価結果に基づき記載　※A＝十分満足　B＝満足　C＝少し不十分　D＝不十分　4段階で絶対評価